

入試年度	2026	入試方式	一般（春季）	課程	博士前期
研究科	発達教育学	専攻	心理学	領域（分野）	臨床心理学
出題のねらい					
専門 入学者受入れの方針に記されたように、筆記試験では、「心理学に関する総合的な専門的知識あるいは技能の有無について精査する」ことを目的とするが、専門の筆記試験では以下の2種類の問題を用意してこれらについて評価する。 まず、心理学領域（基礎的な心理学）、臨床心理学領域の両方を含む心理学の広範囲に及ぶ領域についての知識、理解、技能を評価する。具体的には、認知心理学、社会心理学、生理心理学、心理統計学、臨床心理学、発達臨床心理学などの各領域から、知識、理解などを問う問題を出し、それぞれに簡単に解答することが求められる。もう1種類の問題では、臨床心理学に絞って、より深い知識や理解を問う問題に回答することが求められる。こちらの問題では、臨床心理学領域の考え方や諸概念がしっかりと身についていて、それらについて適切な日本語で、人に伝えるように議論できるかどうかを評価することを目的とする。また、対人援助職を目指すものとして押さえておくべき倫理についての知識や心構え、対人援助の実務に関する知識を評価する観点も持つ。					
解答・解答例または採点時の評価ポイント					
【1】は、上記の1番目の心理学の広い領域についての知識や理解を評価するための問題で、6つの小問からなる。各小問は、認知心理学、社会心理学、生理心理学、心理統計学、臨床心理学、発達臨床心理学などの各領域から、重要な概念や現象などについての簡単な説明を求める問題からなる。これらについては深い議論が求められるわけではなく、確実な知識、理解を有するかどうか問われる。4～7行程度で簡潔な説明ができていれば高い評価が得られる。 【2】【3】は、上記の2番目の臨床心理学領域に関するより深い知識や理解を問う問題である。【2】では、倫理的課題をリストアップするだけでなく、適切な視点で整理できているか、それらと関連付けて支援モデルについて論じられているかが評価される。【3】では、集団守秘義務に関する正確な理解が問われることに加え、公認心理師としての責任や留意点などについての実務に即した理解や公認心理師としての姿勢なども問われる。					

2026 年度京都女子大学大学院発達教育学研究科（博士前期課程）

心理学専攻（臨床心理学領域）入学試験（春季）解答用紙

【専 門】その 1

受験番号（ ） 氏名（ ）

【 1 】

（ 1 ）【解答例】

偏相関係数とは、2 変数間の関連を検討する際に、第 3 の変数（統制変数）の影響を統計的に統制した上で求められる相関係数である。偏相関係数を算出することにより、観察された相関関係が第 3 の変数による影響によって生じている疑似相関である可能性を検討することができる。

（ 2 ）

認知的斉合性理論とは、人が認知間の一貫性を維持しようとし、不整合によって生じる心理的緊張を低減するために認知や態度を変化させると考える理論群である。代表的なものとして認知的不協和理論や均衡理論がある。

（ 3 ）

生物医学モデルでは、疾病の原因を身体の生物学的な異常に求め、生物学的な要因に働きかけることにより治癒を目指すのに対し、生物心理社会モデルでは、生物学的要因、心理学的要因、社会的要因が総合的に働いていると考え、それぞれに対処することで治癒が可能となるとする点で、両者は異なっている。

受験番号（ ） 氏名（ ）

【1】

（4）

記憶におけるテスト効果とは、記憶材料の記録後に再生テストを受けると、同じ時間を再学習に費やした場合と比べ、のちの記憶テストの成績が良くなることをいう。正誤や正答のフィードバックがない場合にもこの効果は見られる。記憶を検索することが記憶の定着に有利にはたらき、のちの想起を促進すると考えられている。

（5）

拡張形成理論とは、ポジティブ感情が注意や思考の幅を広げ、その経験の積み重ねによって個人の資源を形成していくとする理論である。ポジティブ感情は、創造性や柔軟な発想を高め、多様な選択肢を検討したり、新しい行動を試みたりすることを促す。また、繰り返し経験されることで、楽観性、レジリエンス、問題解決能力、認知的柔軟性などの心理的・認知的資源が蓄積される。さらに、ネガティブ感情による心理的・生理的緊張からの回復を助け、不安や緊張の軽減にもつながる。したがって、ポジティブ感情は快感情にとどまらず、適応や健康を支える重要な働きをもつ。

（6）【解答例】

「実験」

- ・ ギブソンとウォークによる乳児の奥行き知覚の発達を検証する実験
- ・ ガラス台で浅い床と深い床があり、乳児が浅い床から深い床へハイハイするときの様子

「結果」

- ・ 生後3か月：境界で心拍が変動（奥行きの知覚）
- ・ 生後6か月：境界から進まない（怖さの認知）

【採点基準】

- ・ 実験（3点）：考案者、目的、実験内容
- ・ 結果（2点）：月数、乳児の行動、わかったこと

2026 年度京都女子大学大学院発達教育学研究科（博士前期課程）
心理学専攻（臨床心理学領域）入学試験（春季）解答用紙
【専 門】その3

受験番号（ ） 氏名（ ）

【2】

【解答例】

発達心理学的知見は医療、教育、福祉等で活用されているが、その臨床応用において定型発達が標準であるという認識がある。すなわち、多数派を正常とし、障害等の少数派を異常とする捉え方が存在し、この捉え方には差別や偏見の倫理的課題が潜在する。

まず、定型発達を基準とする発達段階論は標準的発達変化を前提とするため、この変化から逸脱する児・者には遅れやを問題があると一方的に見なす。このことは発達の多様性を十分に考慮せず、個人差＝異常と判断するリスクがある。特に、障害児者支援では、障害児者を矯正すべき対象として扱う視点が強まり、障害児者本人の主体性や価値観が軽視されやすい。

次に、発達支援臨床では、支援者が発達の専門性を独占するため、被支援者の声が周縁化される構造が生じやすい。このことは被支援者の支援に対する受動性や依存性を高め、支援者と被支援者との協働性を低下させ、被支援者の意思決定権を奪うことにつながる。発達支援は、本来、障害児者本人や家族の生活を踏まえた協働的プロセスであり、支援者中心ではない。

以上の課題を踏まえると、発達心理学は普遍的発達観から多様性を前提とした発達観へと転換する必要がある。具体的には、①当事者・家族・支援者の相互的語りを重視し、支援を協働で構築する姿勢を持つこと、②発達に個人差があることを中立的に捉え、能力の多様性を尊重する支援モデルを構築することが求められる。

発達支援は、単に発達を促すことではなく、当事者個々がその生活の中でよりよく生きることを支える営みである。発達心理学はそのための倫理的基盤を再構築し、多様性を尊重する実践へと進化する必要がある。

【採点基準】

- ・ 倫理的課題（20点）：課題を適切に整理しているか
- ・ 支援モデル（15点）：課題に適切に対応しているか

2026 年度京都女子大学大学院発達教育学研究科（博士前期課程）
心理学専攻（臨床心理学領域）入学試験（春季）解答用紙
【専 門】その4

受験番号 () 氏名 ()

【3】【解答例】

個人の守秘義務とは、心理支援の過程で知り得た個人情報、本人の同意なく第三者に開示しない義務であり、信頼関係の基盤となるものである。一方、集団守秘義務は、学校などの組織内で複数の専門職が関与する場合に、支援に必要な最小限の情報を共有しつつ、その情報が不必要に外部へ漏れないよう管理する義務を指す。両者はいずれも守秘を重視する点で共通するが、集団守秘義務では、共有の必要性和守秘の調整が求められる点異なる。

学校現場では、教員や管理職との情報共有が不可欠である一方、情報が過度に広がるリスクも高い。公認心理師は、共有する情報の範囲や目的を明確にし、本人や保護者への説明と同意を丁寧に行うとともに、児童生徒の最善の利益を最優先に判断する姿勢が求められる。